

## 平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	複式学級にある教育機能とインクルーシブ教育の展開への可能性
報告者氏名・所属・職名	小 淵 隆 司・釧路校・准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	小 淵 隆 司・釧路校・准教授
研究内容及び成果の概要	
<p><b>目的：</b>少子化によるへき地小規模校の統廃合が進む中で、複式学級にある教育機能を明らかにし、その上で異年齢集団にある教育可能性が、大規模校における教育のあり方や能力・発達差がある集団におけるインクルーシブ教育への援用可能性を探ることである。</p> <p><b>対象：</b>全校児童数50人以下の小規模校で、複式学級、特別支援学級が設置されている小学校。調査対象校・地域：北海道2校、青森県2校、岩手県3校、山形県2校。</p> <p><b>方法：</b>(1) 授業観察：複式学級、特別支援学級の授業を観察する。(2) 聞き取り調査：複式学級担任、特別支援学級担任同席半構造化面接。インタビューガイド①複式学級における相互の学びあい、②複式・単式授業、個別指導、その他授業や学級編成に関する工夫、特徴。</p> <p><b>結果：</b>(1) 観察結果：・教師が直接指導中、間接指導学年は、他学年の直接指導のやり取りが気になるなど、自らの課題から一旦離れる時間が生まれるが、主体的に課題に取り組む自発性が見られた。・間接指導時間は、2人以上の子ども同士の話し合いや、教え合いなどの相互作用が見られ、子ども同士の自発的な関わりが生じやすい。・特別支援学級在籍児(SNE児)の当該学年の学年別授業では、SNE児を含めた単式授業として複式学級担任、特別支援学級担任が教科に応じて授業を行っていた。・小集団であるため、児童は授業内で役割を持つことに加え、一人ひとりの意見や考えを表出する機会が多い。</p> <p>(2)聞き取り調査結果：・SNE児を包摂する複式授業においては、特別支援学級担任と複式学級担任が単学年授業を単式で行っている。・SNE児を包摂する集団の人数が少人数であるため、一人の担任で対応することが可能になる。・他学年の教員や事務職など全ての教職員が子どもに関わることが多い。・児童数が少ないため、SNE児は学年を超えて他児童との活動や関わりが生じし、必然的に子ども同士で助け合い、協力する機会が増える。</p> <p><b>考察：</b>(1)複式学級は、自学年以外の授業や活動にも必然的に関心を向けるため、活動への参加に多様性が生まれる。また、一人ひとりの多様な参加が、可視化されることで、子ども同士の相互理解の契機となっていることが推察された。</p> <p>(2)間接指導の「積極的な意味」として、児童が主体的に課題に取り組むことを推進すると共に、子ども同士の学び合いが自然に生起するなど、対話を通じた協同の学習につながる可能性が明らかになった。</p> <p>(3)活動形態によって教師の関わりが多様であり、学級担任だけに固定化されない体制が生まれる。学校全体の教職員の関わりが児童を多面的にみることによって、SNE児を包摂した柔軟な授業のあり方を創造できる可能性が示唆された。</p> <p><b>まとめ：</b>通常の学級の同学年学級集団内に、少人数グループを複数編成する授業形態(複式の要素を入れた授業)は、子ども同士の主体的で対話的な学びが生じやすいことが推察される。今後、通常学級の授業のあり方等を検証し、SNE児を包摂した授業のモデル開発が課題である。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【著書】</p> <p>【学術論文】「へき地教育研究第74号(2019)」へ執筆予定。</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	

	<p>・通常規模の学級において、発達差や能力差のある子どもたちを包摂するインクルーシブ教育を進める際、複式授業にある間接指導の機能は、発達差、能力差のある子ども同士が学びを深める契機となることが示唆され、学級内に複数の小規模グループによる学びの単位を作ることで、これまでの一斉指導を超えた授業を構想できる可能性につながる。</p>
<p>配布又はダウンロード可能な資料</p>	<p>・赤木和重・安藤友里・山本真帆・小淵隆司・戸田竜也(2017).「複式学級における教育可能性の再発見」へき地教育研究第72巻, 29-38.</p> <p>・小淵隆司・戸田竜也(2017).「へき地・小規模校における特別な支援を要する児童を包摂する複式学級の柔軟な授業のあり方」へき地教育研究第72巻, 39-45.</p> <p><a href="http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace-new/public/bulletin/edu_research/vol72.html">http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace-new/public/bulletin/edu_research/vol72.html</a></p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>代表者：小淵隆司  電 話：0154-44-3389  FAX : 0154-44-3389  mail : obuchi.takashi@k.hokkyodai.ac.jp</p>